

【関係者限り】

WHC/25/47.COM/7B

7. 知床（日本）（N 1193）

世界遺産一覧表記載年：2005クライテリア：(ix)(x)危機遺産一覧表記載年：該当なし以前の委員会決定のウェブページ：<https://whc.unesco.org/en/list/1193/documents/>国際援助：

要請承認件数：0 承認合計金額：USD 0

詳細 <https://whc.unesco.org/en/list/1193/assistance/>UNESCO 外部資金援助：該当なし以前に実施されたモニタリング・ミッション（現地調査）：

2008 年 2 月：世界遺産センター／IUCN 合同リアクティブ・モニタリング・ミッション

2019 年 9 月：IUCN 諮問ミッション

以前の報告で特定された資産への影響要因：

- ・管理活動（トド西部亜種（Western Steller sea lion）の個体群管理）
- ・水産養殖（近隣締約国との連携・協力を含む、商業漁業の管理）
- ・その他の気候変動の影響（気候変動により予測される影響）
- ・生物種の過剰個体数（森林、より広い意味では植生の再生に影響を与えているシカの過剰な生息密度）
- ・観光／訪問者／レクリエーションの影響
- ・水関係インフラ施設（河川工学、特に、大規模なサケ科魚類の遡上を含む魚類の回遊を阻害または制限しているダム）
- ・管理制度／管理計画（観光及び訪問者管理）

説明資料のウェブページ：<https://whc.unesco.org/en/list/1193/>現在の保全上の課題

2024 年 6 月 21 日、世界遺産センターは、資産内の携帯電話通信基地局と太陽光発電施設の建設に関する第三者から寄せられた懸念事項を当該国に通知した。当該国は 2024 年 8 月 30 日に回答を提出した。

2024 年 11 月 29 日、当該国は資産の保全状況に関する報告書を提出した。当該報告書は次の URL にて入手可能であり <https://whc.unesco.org/en/list/1193/documents/>、以下の情報が含まれている：

- 知床世界自然遺産地域・気候変動に係る順応的管理戦略は、2024年に策定された（報告書に添付）。気候変動が顕著な普遍的価値（OUV）の属性に及ぼすと予想される影響を考慮し、適応策を特定することが報告されている。

【関係者限り】

- トド (*Eumetopias jubatus*) を管理するための管理基本方針 (BMP) は、漁業被害の軽減とトド個体群の保全を目的として、2024年に改定された。BMPは、日本に來遊するすべてのトドを対象としており (2014年に公表された当初のBMPでは除外されていた根室海峡を含む)、オホーツク海と千島列島の2つの繁殖個体群に対する採捕制限は、各個体群の個体群動態モデルに基づいて「生物学的潜在除去可能レベル」以下に設定され、過去の過剰捕獲に対処して、採捕が予防原則に基づくとともに適応的管理によって実施されることを保証するものである。
- 一部の海鳥 (ウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメ) の個体数が半減した潜在的な原因は、継続的なモニタリングを通じて特定される。
- 本資産の第2期長期モニタリング計画 (LTMP) (報告書に添付) は2024年に改訂され、資産の管理計画に沿った順応的管理のために、遺産価値の現状を評価・査定に必要なモニタリング指標の概要が示された。
- 河川生態系に関連する2019年のIUCN諮問ミッションの勧告については、ルシャ川の改善に向けた様々なモニタリング対策が継続されていること、上流域からの流木が河川の自然地形により捕捉され、その捕捉方法の有効性がモニタリング・調査されること、サケ科魚類の遡上ルートとしての河床路の利用を含む、魚類の遡上に関する様々なモニタリング対策が継続されること、などが挙げられている。

2025年4月8日、当該国は世界遺産センターとIUCNに対し、携帯電話通信基地局の建設計画が中止されたことを通知した。

世界遺産センター及びIUCNの分析と結論

気候変動の影響がより大きな懸念を生み出していること、また気候変動の影響をモニタリングするためのデータが不足していることを想起すると、OUVへの予想される気候変動の影響を考慮し、適応策を特定するために、資産の順応的管理戦略が最終化されたことは歓迎される。また、2022-2032 LTMPの改訂が完了し、今後10年間、資産の管理計画に沿ったモニタリングの指針となることが意図されていることや、LTMPが、要請されたように、サケ科魚類、海鳥類、海生哺乳類などのOUVの属性を含む、クライテリア(x)のもとでの様々な生物多様性の価値への言及を含んでいることも評価できる。当該国には、保全状況をモニタリングし、OUVの保護を確実にする管理決定に情報を提供する長期的アプローチの一環として、戦略とLTMPの効果的な実施を確保することが勧告される。

トドの2つの繁殖個体群について個体群動態モデルが開発され、それがBMPの改定に反映されたことは評価できる。このBMPは、日本に來遊するすべてのトドを対象とする (以前は管理対象から除外されていた個体群も含む) と報告されており、トド個体群を保全しながら漁業への被害を軽減することを目的としている。IUCNの種の保存委員会に諮問したかどうかは不明だが、これらのモデルが、本種の個体数減少をもたらした過剰採捕に対処するため、「生物学的潜在除去可能レベル」を下回ると考えられるレベルでの採捕制限の設定に反映されたことは評価できる。当該国には、持続可能な漁業管理措置が、OUVの属性で

【関係者限り】

ある種の長期的な保全を確実にするために、科学的な個体数データから引き続き情報を得ていることを保証することが勧告される。

以前報告された、登録時からの特定の海鳥の個体数半減の原因を特定するという当該国の意向に留意する。次回の保全状況報告書にその結果を盛り込み、必要に応じてその原因に対処することが勧告される。

地形、サケ科魚類の遡上、産卵、稚魚のモニタリングや、流木の考慮、サケ科魚類の遡上経路を妨げないようにすることなど、2019年の諮問ミッションに対応した河川生態系のモニタリングと改善に関するさまざまな取組が継続されていると報告されていることに留意し、今後も継続されるべきである。

電力供給施設（ソーラーパネルと蓄電池を含む 6,946 m²）、モノレール、埋設パイプを含む予定であった知床半島における携帯電話インフラ建設が中止されたことに留意する。当該国は、資産内またはその周辺における将来の開発について、いかなる進行の決定がなされる前に、提案されているインフラが OUV に及ぼす潜在的な影響を、「世界遺産の文脈における影響評価のためのガイダンスとツールキット」に沿ってまず評価することを再認識すべきである。

決議案：47 COM 7B.7

世界遺産委員会は、

1. 文書 WHC/25/45.COM/7B を検討した上で、
2. 第 41 回委員会会合（クラクフ、2017 年）、第 43 回委員会会合（バクー、2019 年）、第 44 回委員会拡大会合（福州／オンライン、2021 年）及び第 45 回委員会拡大会合（リヤド、2023 年）で採択された決議 41 COM 7B.30、43 COM 7B.10、44 COM 7B.186 及び 45 COM 7B.84 を想起し、
3. 気候変動が同資産の顕著な普遍的価値（OUV）に及ぼす影響に対処するための気候変動に係る順応的管理戦略の最終化を歓迎し、当該国に対し、気候変動の影響に関する長期的なモニタリングや同資産の OUV の継続的な保護を含め、その実施のために十分な資源の配分を確保するよう要請する（request）；
4. また、トド（*Eumetopias jubatus*）を管理するための管理基本方針が、オホーツク海と千島列島の2つの繁殖個体群の新たな個体群動態モデルに基づいて改訂されたこと、採捕レベルがトドの個体群を保全すると考えられる制限内に設定されたことを歓迎する。また、当該国に対し、必要に応じて IUCN 種の保存委員会と協議し、OUV の属性としての種の長期的な保全を確保するために、予防的で順応的であり、科学的な個体数データから継続的に情報を得ることができる持続可能な漁業管理アプローチを引き続き実施するよう要請する（request）；
5. 資産登録以来、一部の海鳥の個体数が半減したと報告された原因については、継続的なモニタリング努力を通じて特定されることに留意し、さらに当該国に対し、OUV の重要な属性である種を維持するため、その結果を報告し、必要に応じて原因に対処するよ

う要請する (request) ;

6. 資産に関する長期モニタリング計画 (LTMP) の改訂が完了したこと、改訂された2022-2032 LTMPが、サケ科魚類、海鳥類、海生哺乳類などのOUVの属性を含む、クライテリア (x) の下での様々な生物多様性の価値への言及を含むことに謝意をもって留意し、さらに当該国に対し、保全状態をモニタリングし、OUVの保護を確保する管理決定に情報を提供する長期的アプローチの一環として、LTMPを実施するよう要請する (request) ;
7. また、河川生態系のモニタリングと改善を含む、2019年IUCN諮問ミッションの勧告に対する当該国の継続的な対応に留意し、当該国がこれらの行動を引き続き実施することを奨励する (encourage) ;
8. さらに、知床半島で報告されていた携帯電話インフラ建設が中止されたことに留意し、当該国に対し、資産内またはその周辺における将来の開発提案について、いかなる進行の決定がなされる前に、OUVへの潜在的な影響を評価するため、「世界遺産の文脈における影響評価のためのガイダンスとツールキット」に沿った環境・社会影響評価を確実に行う必要があることを喚起する (remind) ;
9. 最後に、当該国に対し、2027年12月1日までに、世界遺産センターとIUCNによるレビューため、資産の保全状況と上記の実施状況に関する最新の報告書を世界遺産センターに提出するよう要請する (request)。

7. Shiretoko (Japan)

Year of inscription on the World Heritage List 2005

Criteria (ix)(x)

Year(s) of inscription on the List of World Heritage in Danger N/A

Previous Committee Decisions see page <https://whc.unesco.org/en/list/1193/documents/>

International Assistance

Requests approved: 0

Total amount approved: USD 0

For details, see page <https://whc.unesco.org/en/list/1193/assistance/>

UNESCO Extra-budgetary Funds N/A

Previous monitoring missions

February 2008: joint World Heritage Centre/ IUCN Reactive Monitoring mission;

September 2019: IUCN Advisory mission

Factors affecting the property identified in previous reports

- Management activities (Management of the Western Steller sea lion population);
- Aquaculture (Management of commercial fisheries, including coordination and cooperation with neighboring States Parties);
- Other climate change impacts (Anticipated effects of climate change);
- Hyper-abundant species (Excessive population density of Sika Deer affecting forest regeneration and vegetation more broadly);
- Impacts of tourism/visitor/recreation
- Water infrastructure (River engineering, in particular dams, impeding or restricting fish migration, including major runs of salmonids)
- Management system/management plan (Tourism and visitor management).

Illustrative material see page <https://whc.unesco.org/en/list/1193/>

Current conservation issues

On 21 June 2024, the World Heritage Centre transmitted to the State Party third party concerns regarding the construction of mobile phone communication bases and solar power facilities in the property. The State Party provided a response on 30 August 2024.

On 29 November 2024, the State Party submitted a state of conservation report, which is available at <https://whc.unesco.org/en/list/1193/documents/> and reports the following:

- The *Adaptive Management Strategy for Climate Change in the Shiretoko Natural World Heritage Site* (appended to report) was developed in 2024. It is reported to take into

consideration the expected impact of climate change on the attributes of the Outstanding Universal Value (OUV) and identify adaptation measures;

- The Basic Management Policy (BMP) to manage Steller sea lions (*Eumetopias jubatus*) was revised in 2024 to reduce damage to fisheries and conserve the sea lion population. The BMP covers all Stellar sea lions migrating to Japan (including in Nemuro Strait, excluded in the initial BMP published in 2014), and catch limits for the two breeding populations in the Sea of Okhotsk and the Kuril Islands were set below the “potential biological removal level”, based on population dynamics models for each population to ensure catches are based on the precautionary principle and implemented through adaptive management, addressing past overharvesting;
- The potential cause of some seabird populations (Japanese cormorants (*Phalacrocorax capillatus*), black-tailed gulls (*Larus crassirostris*), and slaty-backed gulls (*Larus schistisagus*)) decreasing by half will be identified through ongoing monitoring;
- The Phase II Long-Term Monitoring Plan (LTMP) for the property (appended to report) was revised in 2024 to outline the monitoring indicators necessary to assess and evaluate the current status of the heritage values for adaptive management in line with the Management Plan for the property;
- Regarding the 2019 IUCN Advisory mission recommendations related to river ecosystems, various monitoring measures are being continued to improve the Rusha River; wooden debris from the upper reaches is trapped in the river’s natural topography and the effectiveness of a method for capturing debris will be monitored and studied; and various monitoring measures will be continued regarding fish runs including the use of the riverbed path as a route for salmonids to migrate upstream.

On 8 April 2025, the State Party informed the World Heritage Centre and IUCN that plans for the construction of mobile phone communication bases had been cancelled.

Analysis and Conclusions of the World Heritage Centre and IUCN

Recalling that effects of climate change are generating greater concern and there has been a lack of data to monitor climate change impacts, it is welcomed that an adaptive management strategy for the property has been finalised to take into consideration expected climate change impacts on the OUV and identify adaptation measures. It is also positive that the revision of the 2022-2032 LTMP has been completed and is intended to guide monitoring over the next decade in line with the Management Plan for the property, and that the LTMP includes reference to various biodiversity values under criterion (x), including attributes of the OUV such as salmonid species, seabirds and marine mammals, as requested. It is recommended the State Party ensure effective implementation of the strategy and the LTMP as part of a long-term approach to monitor the state of conservation and inform management decisions that ensure the protection of the OUV.

It is positive that population dynamics models have been developed for the two breeding populations of Steller sea lions and that these informed the revision of the BMP, which is reported to include all sea lions migrating to Japan (including those previously excluded from management) and aims to reduce damage to fisheries whilst conserving the sea lion populations. Although it is unclear whether the IUCN Species Survival Commission was consulted, it is positive that these models have informed the setting of catch limits at a level

that is considered to be below the “potential biological removal level” to address overharvesting which had resulted in the species’ population decline. It is recommended the State Party ensure that sustainable fisheries management measures continue to be informed by scientific population data to ensure the long-term conservation of the species as an attribute of the OUV.

The State Party’s intention to identify the cause of the previously reported reduction in certain seabird populations by half since the time of inscription, is noted. It is recommended the findings are included in the next state of conservation report and that the causes are addressed, as necessary.

The various efforts related to the monitoring and improvement of the river ecosystem in response to the 2019 Advisory mission that are reported to be continuing, including monitoring of topography, salmonids running upstream, spawning and juveniles, as well as to consider wooden debris and ensuring an unobstructed migration path for salmonids, are noted and should be continued.

The cancellation of the construction of a mobile phone infrastructure on the Shiretoko peninsula that would have included a power supply facility (6,946 m² including solar panels and a storage battery), monorail and buried pipes, is noted. The State Party is reminded that for any future developments within the property or in its vicinity, the potential impacts of a proposed infrastructure on the OUV are first assessed in line with the Guidance and Toolkit for Impact Assessments in a World Heritage Context, before any decision is made to proceed.

Draft Decision: 47 COM 7B.7

The World Heritage Committee,

1. Having examined Document WHC/25/47.COM/7B,
2. Recalling Decisions **41 COM 7B.30**, **43 COM 7B.10**, **44 COM 7B.186** and **45 COM 7B.84**, adopted at its 41st (Krakow, 2017), 43rd (Baku, 2019), extended 44th (Fuzhou/online, 2021) and extended 45th (Riyadh, 2023) sessions respectively,
3. Welcomes the finalisation of an Adaptive Management Strategy for Climate Change to address climate change-driven impacts on the Outstanding Universal Value (OUV) of the property, and requests the State Party to ensure that sufficient allocation of resources is provided for its implementation, including long-term monitoring of climate change impacts, and the ongoing protection of the OUV of the property;
4. Also welcomes that the Basic Management Policy for managing Steller sea lions (*Eumetopias jubatus*) has been revised based on new population dynamics models of the two breeding populations in the Sea of Okhotsk and the Kuril Islands, and that catch levels have been set at limits that are considered to conserve the sea lion population, and also

requests the State Party to continue implementing a sustainable fisheries management approach that is precautionary, adaptive and continues to be informed by scientific population data in order to ensure the long-term conservation of the species as an attribute of the OUV, in consultation with the IUCN Species Survival Commission as required;

5. *Takes note that the cause for the reported decrease by half of some seabird populations since the inscription of the property will be identified through ongoing monitoring efforts, and further requests the State Party to report on its findings and address such causes, as necessary, to maintain species that are important attributes of the OUV;*
6. *Notes with appreciation that the revision of the Long-Term Monitoring Plan (LTMP) for the property has been completed, and that the revised 2022-2032 LTMP includes reference to various biodiversity values under criterion (x), including attributes of the OUV such as salmonid species, seabirds and marine mammals, and requests furthermore the State Party to implement the LTMP as part of a long-term approach to monitor the state of conservation and inform management decisions that ensure the protection of the OUV;*
7. *Also takes note of the State Party's ongoing response to the 2019 IUCN Advisory mission recommendations including through the monitoring and improvement of the river ecosystem, and encourages the State Party to continue to implement these actions;*
8. *Further notes the cancellation of the reported construction of a mobile phone infrastructure on Shiretoko peninsula, and reminds the State Party to ensure any future development proposals within the property or in its vicinity are subject to an Environment and Social Impact Assessment in line with the Guidance and Toolkit for Impact Assessments in a World Heritage Context, to assess any potential impacts on the OUV, before any decision is made to proceed;*
9. *Finally requests the State Party to submit to the World Heritage Centre, by **1 December 2027**, an updated report on the state of conservation of the property and the implementation of the above for review by the World Heritage Centre and IUCN.*